

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3 年計画の 1 年目)

1. 研究課題

アジアにおける人種主義の連鎖と転換

Chain Reactions and Transformations in the Meanings of Racism in Asia

2. 研究代表者氏名

竹沢泰子

TAKEZAWA Yasuko

3. 研究期間

2016 年 4 月 - 2019 年 3 月 (1 年度目)

4. 研究目的

従来の人種主義の研究の大半は、非「白人」であるマイノリティ集団を主たる研究対象としてきた。しかし、日本やアジアにおける人種主義は、そのような皮膚の色で分類する単純な構図には収まらない。例えば、「白人」ではない「日本人」が行為体となった場合、身体的に不可視の人々を、自己・他者の差異化によって人種化するプロセスとメカニズムが見受けられる。さらにそのような不可視の人々と「白人」に対する両義的なまなざしが交錯し、アジアにおける人種主義は屈折した複雑性を見せている。本共同研究では、他地域との比較を射程に含めながら、知識人言説、大衆文化、科学言説等を検証し、アジアにおける人種主義の連鎖と意味転換のプロセスとメカニズムを解明する。

5. 本年度の研究実施状況

本年度に新しく立ち上げた本研究会は、同じく新規に採択された科学研究費基盤(S)と連動させながら、アジアにおける人種主義を主眼に置いた共同研究を進めている。本年度は、12月末までに6回の研究会を行い、3月末までには合計11回の研究会を行う予定である。内容としては、ゲノム研究の現状や遺伝病の集団差、日本人の起源などをめぐる文理融合の共同研究や、海外からの報告者を交えての国際ワークショップ(公開)、さらに本年度に刊行されたシリーズ「人種神話を解体する」(全3巻)の合評会(非公開)、国際共同研究の成果論文集 **Trans-Pacific Japanese American Studies** の執筆陣座談会(公開)などを開催した。これらの共同研究会を通して、次のさらなる課題を明確にし、共有することを目標とした。

7. 本年度の研究実施内容

2016-06-19 第1回研究会

ゲノムのさらなる展開

発表者 太田博樹 北里大学

疾患感受性の遺伝子と集団差—3つの疾患を例として

発表者 徳永勝士 東京大学

2016-06-25 第2回研究会

国際セミナー " Intersecting the Global with the Local: Activism and American Minorities"

“Between Social Death and State Recognition: Japanese Americans and the Gila River Indian Community During World War II”

発表者 Myla Vicenti-Carpio Arizona State University

発表者 Karen J. Leong Arizona State University

コメンテーター Masumi Izumi 同志社大学

“Intersections of Atomic Memory and Asian American Activism in the 1970s and 80s”

発表者 Crystal Uchino 人間・環境学研究科

コメンテーター Judy Tzu-Chun Wu University of California, Irvine

“Chee Kung Tong and China Revolution: How Chinese Americans Understood Diasporic Politics”

発表者 Yumei Song 人間・環境学研究科

コメンテーター Judy Tzu-Chun Wu University of California, Irvine

“Patsy for President: Patsy Takemoto Mink, Cold War Liberalism, and the Viet Nam War”

発表者 Judy Tzu-Chun Wu University of California, Irvine

全体討論 "Intersecting the Global with the Local/ Activism and American Minorities"

司会 Brian Masaru Hayashi 人間・環境学研究科

司会 徳永悠

2016-07-03 第3回研究会

全体討論／各メンバーの研究テーマ紹介 発表者 関口寛 四国大学

発表者 成田龍一 日本女子大学

発表者 吉村智博 大阪人権博物館

発表者 John Russell 岐阜大学

発表者 田辺明生 東京大学

発表者 崔徳孝 ケンブリッジ大学

発表者 Arnaud Nanta フランス国立科学研究センター

発表者 Mark Winchester 神田外国語大学

発表者 竹沢泰子

発表者 徳永悠

2016-10-03 第4回研究会

米国初の特定人種用薬剤 BiDil をめぐる議論から

発表者 竹沢泰子

医薬品承認をめぐる国際間交渉や意思決定—ICH発足当時の現場から—

発表者 黒川達夫 くすりの適正使用協議会理事長、日本OTC医薬品協会理事長、日本
バイオシミラー協議会理事長

2016-10-22 第5回研究会

国際セミナー Trans-Pacific Japanese American Studies

“Asian American Culture on Stage: Transforming the View”

発表者 Velina Hasu Houston University of Southern California

コメンテーター Alina Elena Anton 神戸大学

“The Japanese and the Origins of the Orientalist Buddy Film”

発表者 Brian Locke University of Tokyo

コメンテーター Mitsuyo Wada-Marciano Carleton University / 国際日本文化研究セ
ンター

執筆陣による座談会: Trans-Pacific Japanese American Studies (Yasuko Takezawa
and Gary Y. Okihiro, eds. University of Hawai'i Press, 2016) の刊行を記念して

司会 竹沢泰子

発表者 和泉真澄 同志社大学

発表者 河上幸子 京都外国語大学

発表者 今野裕子 上智大学

発表者 武田興欣 青山学院大学

発表者 佃陽子 成城大学

発表者 中村理香 成城大学

発表者 松本悠子 中央大学

発表者 南川文里 立命館大学

2016-12-11 第6回研究会

※『人種神話を解体する』(1～3巻)各序論を中心に概要を説明

発表者 坂野徹 日本大学

発表者 竹沢泰子

日本人起源論の持つ視点

発表者 篠田謙一 国立科学博物館

「遺伝情報に基づく差別(genetic discrimination)」をとらえなおす

発表者 武藤香織 東京大学

2017-01-25 第7回研究会(合評会)

合評会 斉藤綾子・竹沢泰子編『人種神話を解体する』(第1巻)

コメンテーター 成田龍一 日本女子大学

合評会 坂野徹・竹沢泰子編『人種神話を解体する』(第2巻)

コメンテーター 田辺明生 東京大学

合評会 川島浩平・竹沢泰子編『人種神話を解体する』(第3巻)

コメンテーター 関口寛 四国大学

2017-03-08 第8回研究会

文理融合セミナー

政治と科学(者)の関係

発表者 佐野亘 地球環境学堂

ポストゲノム時代の「人種」

発表者 田辺明生 東京大学

2017-03-09 第9回研究会

文理融合セミナー

ゲノムと病気の関係

発表者 徳永勝士 東京大学

ゲノム情報に基づく個人の表現型予測と医療への応用

発表者 今西規 東海大学

2017-03-28

第10回 歴史文化班研究会

『人種神話を解体する』合評会まとめ・今後の課題

発表者 竹沢泰子

人種差別からの自由

発表者 マーク・ウィンチェスター 神田外語大学

2017-03-29

第 11 回 歴史文化班研究会

現代インドにおける「人種」と差異の政治——多様性と平等性をめぐる社会史的考察

発表者 田辺明生 東京大学

いまいちど、人種をめぐって

発表者 成田龍一 日本女子大学

8. 共同研究会に関連した公表実績

学術書シリーズ『人種神話を解体する』(編集責任 竹沢泰子)(東京大学出版会、2016年)

- ・第 1 巻 斉藤綾子・竹沢泰子編著『In(Visibility): 可視性と不可視性のはざままで』
- ・第 2 巻 坂野徹・竹沢泰子編著『Knowledge: 科学と社会の知』
- ・第 3 巻 川島浩平・竹沢泰子編著『Hybridity: 「血」の政治学を越えて』

Trans-Pacific Japanese American Studies: Conversations on Race and Racializations, ed. Yasuko Takezawa and Gary Y. Okihiro. University of Hawai'i Press, 2016. 英文学術雑誌特集号 Japanese Studies 35:1, Special Issue: Rethinking Race/Racism from Asian Experiences (Koichi Iwabuchi, ed.)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	4 (2)	0	0	1 (0)	19 (10)	0	0	8 (0)
学内	2	5 (2)	2 (2)	2 (2)	0	7 (3)	3 (3)	3 (3)	0
国立大学	7	10 (1)	3 (1)	0	2 (1)	26 (3)	3 (1)	0	2 (1)
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立大学	15	19 (7)	1 (0)	1 (0)	3 (3)	28 (9)	2 (0)	1 (0)	3 (3)
大学共同利用機関法人	1	1 (0)	0	0	0	1 (0)	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関	1	1 (0)	0	0	0	3 (0)	0	0	0
民間機関	1	1 (0)	0	0	0	3 (0)	0	0	0
外国機関	6	8 (5)	5 (4)	1 (1)	1 (0)	9 (5)	6 (4)	1 (1)	1 (0)
その他	3	3 (0)	0	0	0	3 (0)	0	0	0
計	37	52 (17)	11 (7)	4 (3)	7 (4)	99 (30)	14 (8)	5 (4)	14 (4)

※()内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	平成 28 年度に共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研教員等のみの論文(単著・共著)	4		0	
②人文研教員等と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	54	(10)	22	(4)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

人文研教員等には教員のほか、人文研の非常勤職員・指導している大学院生も含まれます。
()内は、人文研教員等が、特に重要な役割・高い貢献(ファーストオーサー、コレスポンディングオーサー、ラストオーサー等)を果たしている論文(内数)。

13. 次年度の研究実施計画

5-6月頃 歴史文化班研究会(1回)

6月7日 日系アメリカ人研究会(1回)

6-7月 連続セミナー(5回)

7月 びわこ 文理融合セミナー(2回)

8月 ワシントン大学共催シンポジウム(2日間)

9月 歴史文化班研究会(1回) 秋 文理融合セミナー(1回)

11月末 AAA (2回)

12月 フランス TEPSIS との合同研究会(2回)

1月 文理融合セミナー in 沖縄(2回)

3月 フランスでの合同シンポジウム(2日間)

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

論文集(出版社確保済み) フランス国立社会科学高等研究院 雑誌 **Politika** 特集号(フランス語) 人文学報 特集号など